

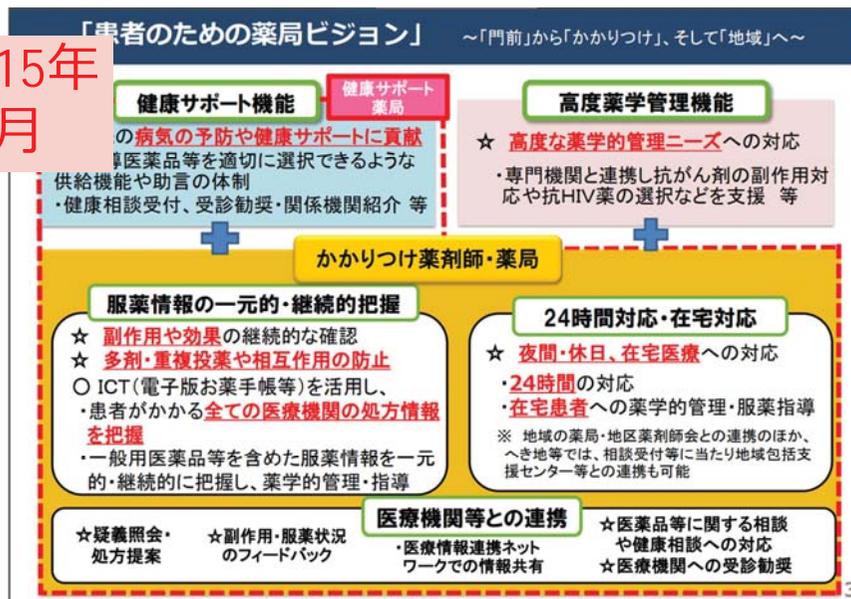
専門医療機関連携薬局の申請について

南日本薬剤センター薬局 山門慎一郎

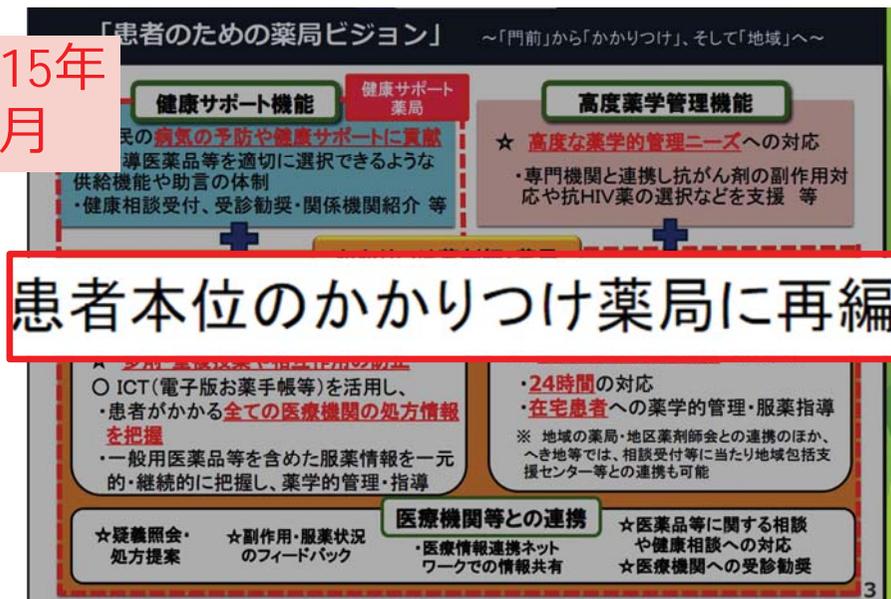
南日本薬剤センター薬局

令和4年8月1日
専門医療機関連携薬局（がん）の認定

2015年
10月



2015年
10月



患者本位のかかりつけ薬局に再編

2015年
10月

「患者のための薬局ビジョン」

～「門前」から「かかりつけ」、そして「地域」へ～

健康サポート機能

健康サポート
薬局

の病気の予防や健康サポートに貢献
医薬品等を適切に選択できるような
供給機能や助言の体制
・健康相談受付、受診勧奨・関係機関紹介 等

高度薬学管理機能

☆ 高度な薬学的管理ニーズへの対応
・専門機関と連携し抗がん剤の副作用対
応や抗HIV薬の選択などを支援 等

かかりつけ薬剤師・薬局

服薬情報の一元的・継続的把握

☆ 副作用や効果の継続的な確認
☆ 多剤・重複投薬や相互作用の防止
○ ICT(電子版お薬手帳等)を活用し、
・患者がかかる全ての医療機関の処方情報を把握
・一般用医薬品等を含めた服薬情報を一元的・継続的に把握し、薬学的管理・指導

24時間対応・在宅対応

☆ 夜間・休日、在宅医療への対応
・24時間の対応
・在宅患者への薬学的管理・服薬指導
※ 地域の薬局・地区薬剤師会との連携のほか、
へき地等では、相談受付等に当たり地域包括支
援センター等との連携も可能

医療機関等との連携

☆ 疑義照会・
処方提案
☆ 副作用・服薬状況
のフィードバック
☆ 医療情報連携ネット
ワークでの情報共有
☆ 医薬品等に関する相談
や健康相談への対応
☆ 医療機関への受診勧奨

3

特定の機能を有する薬局の認定

2021年
8月

局を取り巻く状況が変化する中、患者が自身に適した薬局を選択できるよう、以下の機能を有すると認められる薬局に府県の認定により名称表示を可能とする。

の医療機関等との情報連携や、在宅医療等に地域の薬局と
一元的・継続的に対応できる薬局 (地域連携薬局)

・がん等の専門的な薬学管理に関係機関と連携して
対応できる薬局 (専門医療機関連携薬局)

患者のための薬局ビジョンの
「かかりつけ薬剤師・薬局機能」に対応

患者のための薬局ビジョンの
「高度薬学管理機能」に対応

地域連携薬局



専門医療機関連携薬局



【主な要件】

- ・関係機関との情報共有 (入院時の持参薬情報の医療機関への提供、退院時カンファレンスへの参加等)
- ・夜間・休日の対応を含めた地域の調剤応需体制の構築・参画
- ・地域包括ケアに関する研修を受け九薬剤師の配置
- ・在宅医療への対応 (麻薬調剤の対応等)

【主な要件】

- ・関係機関との情報共有 (専門医療機関との治療方針等の共有、患者が利用する地域連携薬局等との服薬情報の共有等)
- ・学会認定等の専門性が高い薬剤師の配置

※都道府県知事の認定は、構造設備や業務体制に加え、機能を適切に発揮していることを実績により確認する。このため、1年ごとの更新とする。

二次医療圏に1件以上

- ・ 鹿児島県内には9つの二次医療圏が存在する。

二次保健医療圏	
圏域名	圏域内市郡
鹿児島	鹿児島市、日置市、いちき串木野市、鹿児島郡
南薩	枕崎市、指宿市、南さつま市、南九州市
川薩	薩摩川内市、薩摩郡
出水	阿久根市、出水市、出水郡
始良・伊佐	霧島市、伊佐市、始良市、始良郡
曾於	曾於市、志布志市、曾於郡
肝属	鹿屋市、垂水市、肝属郡
熊毛	西之表市、熊毛郡
奄美	奄美市、大島郡
9圏域	43市町村(19市20町4村)

(鹿児島県保健医療計画(平成25年3月)より抜粋。)



認定基準 (抜粋)

- ▶ 専門性を有する常勤として勤務している薬剤師の体制
- ▶ 専門的な医療の提供等を行う医療機関との間で開催される会議への参加
- ▶ 専門的な医療の提供等を行う医療機関に勤務する薬剤師等に対して報告及び連絡した実績 (過去1年間において薬局で処方箋を応需しているがん患者数のうちの半数以上のがん患者について)

認定基準（抜粋）

▶ 専門性を有する常勤として勤務している薬剤師の体制

(7) 傷病の区分に係る専門性を有する常勤として勤務している薬剤師の体制
(規則第10条の3第4項第7号関係)

本規定は、傷病の区分に係る専門性を有する常勤の薬剤師を配置していることを求めるものであり、当該薬剤師は規則第10条の3第6項に規定する基準に基づき厚生労働大臣に届け出た団体が認定する薬剤師であること。

がんの区分に係る専門性とは、抗がん剤の化学療法の知識のほか、支持療法で用いる薬剤も含め、がんの薬物療法全般に係る専門性を有する薬剤師であること。

なお、常勤として勤務している薬剤師の取扱いについては、地域連携薬局における第2の3(7)の取扱いと同様の考え方で対応すること。

【傷病の区分に係る専門性の認定を行う団体】

○傷病の区分：がん

団体名	専門性の名称	届出受理年月日
一般社団法人 日本医療薬学会	地域薬学ケア専門薬剤師（がん）	令和3年6月9日
一般社団法人 日本臨床腫瘍薬学会	外来がん治療専門薬剤師	令和3年6月9日

▶ 地域薬学ケア専門薬剤師（がん）1名（+他支店1名）

認定基準（抜粋）

▶ 専門的な医療の提供等を行う医療機関との間で開催される会議への参加

専門医療機関連携薬局としてその役割を発揮するためには、がん治療に係る医療機関との連携体制を構築した上で、利用者の治療方針を共有することや必要な情報提供を行うことなどの業務に取り組むことが求められる。このため、薬局開設者が、当該薬局において薬事に関する実務に従事する薬剤師を、利用者の治療方針を共有するためにがんの区分に係る専門的な医療の提供等を行う医療機関が開催する会議に継続的に参加させていることを求めているものであり、参加の頻度については、当該医療機関における会議の開催状況を踏まえつつ、薬局として参加すべきものを検討した上で積極的に関わっていくこと。「第1項に規定する傷病の区分（本規定ではがんの区分）に係る専門的な医療の提供等を行う医療機関」とは、厚生労働大臣が指定するがん診療連携拠点病院等及び都道府県が専門的ながん医療を提供するものとして認めた医療機関であること（以下、本通知

専門的な医療の提供等を行う医療機関

▶ がん診療連携拠点病院等

鹿児島大学病院、鹿児島市立病院、鹿児島医療センター、いまきいれ総合病院、済生会川内病院、相良病院、出水郡医師会広域医療センター、薩南病院、南九州病院、鹿屋医療センター、種子島医療センター

▶ 鹿児島県がん指定病院

南風病院、厚生連病院、今村総合病院、鹿児島市医師会病院、サザンリージョン病院、指宿医療センター、川内市医師会立市民病院、出水総合医療センター、霧島市医師会医療センター、北薩病院、曾於医師会曾於医師会立病院、徳洲会大隅鹿屋病院、おぐら病院、池田病院、新村病院

専門的な医療の提供等を行う医療機関との間で開催される会議への参加

- ▶ 専門的な医療の提供等を行う医療機関が開催する薬局利用者に関するカンサーボードや退院時カンファレンスが該当
- ▶ 連携充実加算に係る保険薬局向けの研修会は該当しない
- ▶ 専門薬剤師の病院研修で参加するカンファレンス等は条件付き該当
 - ✓ 自薬局利用者がカンファレンスで取り扱われている
 - ✓ 薬局の代表とし参加し薬局内にその情報を周知させる

専門的な医療の提供等を行う医療機関に勤務する薬剤師等に対して報告及び連絡した実績（過去1年間において薬局で処方箋を応需しているがん患者数のうちの半数以上のがん患者について

本規定は、前号の体制を構築した上で、薬局開設者が、認定申請又は認定更新申請の前月までの過去1年間において、当該薬局において薬事に関する実務に従事する薬剤師に、当該薬剤師からがん治療に係る医療機関に勤務する薬剤師その他の医療関係者に対して、当該薬局で処方箋を応需しているがん患者数のうち半数以上のがん患者について情報の報告及び連絡を行わせた実績を求めるものであること。

なお、がん患者とは、抗がん剤や支持療法に必要な薬剤を用いてがん治療を受けている者を指すものであり、がん治療に係る医療機関と連携を行う中で、対象となる者を判断すること。

南日本薬剤センター薬局のがん患者の概要

- ▶ 1年間の癌患者数 約 1 5 0 名
- ▶ 専門的な医療の提供等を行う医療機関の患者 3 6 名（申請時）

南日本薬剤センター薬局のがん患者の概要

- ▶ 門前医療機関からの患者が大半（1年間の癌患者数 約 1 5 0 名）
- ▶ 専門的な医療の提供等を行う医療機関の患者 3 6 名（申請時）

分子・分母とも専門的な医療の提供等を行う医療機関だけで良い

トレーシングレポートの提出

- ▶ 薬剤毎に副作用チェックリストを作成し電話フォローアップ
- ▶ 有害事象がなかったことも報告
- ▶ 医療機関によっては専用のトレーシングレポートの書式
- ▶ がん患者は自分の病名や病状についてよく説明できることが多い
- ▶ がん患者では電話フォローアップを受け入れる割合が高い

スムーズな申請のために

- ▶ 認定の取得の必要性を薬局経営者と職員で共有すること
- ▶ 認定要件の解釈について薬務課へ確認しながら準備すること
- ▶ 病院研修の進め方や医療機関との連携について病院薬剤部の先生に相談すること